近いが，花が大きく花弁は萼よりはるかに長く 7-9 mm になる。ネパール産。

123) *Draba Williamsii* Hara (新種) 東部ヒマラヤの高地に産し，全体に毛が多く苞は葉状，花は白く子房にも密毛がある。変った種で，正確な類縁を知るためには成熟した果実が必要である。

124) *Prunus jajarkotensis* Hara (新種) バクチノキの仲間であるが，花序は無毛で花梗は細長く 5-10 mm になる。ネパール西部産。

125) *Jasminum amabile* Hara (新種) 長さ 2-2.5 cm の細長い花筒をもつ白花と，うすい対生の単葉をつける東部ネパール産の一種。

126) *Caralluma Staintonii* Hara (新種) 無葉の多肉植物で，ネパールでは初発見の属である。花冠は径 8 mm ばかり，裂片の内面に疣状小突起があり早落性の針状の毛が散生する。

127) *Polemonium caeruleum* subsp. *himalayanum* (新組合せ) ヒマラヤのハナシノブは毛が多く花梗と萼には腺毛が密生し，これらの形質が安定しているので亜種として扱いたい。

128) *Ophiorrhiza Staintonii* Hara (新種) 木性になる大形の一種で，花の標本だけなのでその所属に疑問が残されている。

□カワゴケソウ属の1種大隅半島南端に発見　カワゴケソウ属は日本では3種が知られていて，その全部が薩摩半島に産し．そのうち1種が大隅の志布志湾に流入する安楽川の一部に知られていた。今年8月カワゴケソウ科の保存，移植調査を実施中，大隅半島南端の雄川の上流花瀬（部分名花瀬川）でカワゴロモの生育状況をしらべ，ウスカワゴロモ・カワゴケソウの移植を実施，さらに上流の奥花瀬を調査中，カワゴケソウ属の一種を発見した。花期でないので種の決定はひかえるが，日本産既知の3種とは栄養体の大きさなどではっきり区別出来る別種が見出された。詳細は秋から冬にかけて花や果実を見た上で発表するが速報をしておく。カワゴケソウ科は日本では一河川に1種が生育しているのが普通であり，同一河川に2属2種が生育しているのは安楽川と雄川だけということになる。　（新　敏夫　鹿児島大学教養部生物学教室）

□鮫島惇一郎・辻井達一： **北海道の花** (Wild flowers of Hokkaido) pp. 191 pls. 457, 北海道大学図書刊行会，札幌，¥1500　1977年4月。北海道産の花の咲く種類で普通なものを，海岸から高山までを通じて457種を選び，それの写真を黄，白，赤やピンク，青や紫，それに緑やその他の五部に分かち，各々をエングラーの逆順に排列，要を得た記事を附記している。一般向きだがよい写真があって参考になる。しかしキバナシャクナゲの花色や，赤と青との配分などに問題があるのは，印刷のためと思うが惜しい。参考文献は存外多くがあがっている。　（前川文夫）